

## 2026 年度 新規養成カリキュラム一覧

- 以下の研修 A～G を養成のカリキュラムとする。スキルアップ研修は任意で参加可能。実施日程は、別紙 2 に定める（本会議資料 3－1）。
- 養成カリキュラムを修了した者は、研修修了者登録がされ、登録試験の受験資格を得ることができる。
- 新規養成研修は、知床五湖登録引率者審査部会が募集、実施、管理を行う。

研修A－制度概要・危機管理研修		扱い手：登録引率者審査部会事務局
座学（半日）	<u>オリエンテーション</u> <ul style="list-style-type: none"><li>試験と登録フローの説明とカリキュラム概説</li></ul> <u>制度概要</u> <ul style="list-style-type: none"><li>利用調整地区制度の目的（自然環境への負荷軽減、安全管理）</li><li>知床五湖運用方針の解説</li><li>知床五湖登録引率者の役割</li></ul> <u>危機管理講習</u> <ul style="list-style-type: none"><li>知床五湖における引率のリスク</li><li>リスク回避のための備え</li></ul>	

研修B－知床五湖におけるヒグマ対処法の研修		扱い手：知床財団
座学（半日）	知床五湖におけるヒグマの現状、ヒグマの生態・行動特性 遭遇回避、遭遇時の危機回避、持ち物・装備	
実地（半日）	危険な遭遇を回避するための対処法、遭遇時の危機回避の方法 ヒグマ撃退スプレーの試射、ヒグマの痕跡の見分け方	

研修C－知床五湖の利用コントロール運用に関する研修	
	扱い手：知床ガイド協議会（当該年度のルールを把握し、登録引率者の経験を持つ者）
実地（半日）	ヒグマ活動期レクチャー受講 ヒグマ活動期地上遊歩道踏査 <ul style="list-style-type: none"><li>運用マニュアルに基づく制度の確認</li><li>地理的、時間的な感覚の把握</li><li>注意ポイント等の確認</li></ul>
座学・実地（半日）	※実地研修の際にヒグマが目撃された場合は引き返し、実施状況次第では別日に実施する。 ヒグマ遭遇時マニュアルを中心とした運用ルールの解説 無線連絡に関する講義と実技 無線を用いた遭遇時シミュレーション 演習のふりかえり及びインターン研修の諸注意説明

※研修D以降の開始は、研修A, B, Cの修了を前提とする。

**研修D－インターン研修1（ヒグマ活動期の知床五湖地上遊歩道ツアー同行）**

扱い手：既存登録引率者

実地 (4回以上)	既存登録引率者※が行う知床五湖遊歩道大ループツアーに4回以上同行 研修実施毎にレポート作成・提出
--------------	---

※同行する既存登録引率者への依頼は基本的に研修生自ら行うが、困難である場合は知床ガイド協議会等に相談し、協力を要請する。

**研修E－シーズン中・シーズン後研修への参加**

(既存登録引率者と共にカリキュラム) (シーズン後研修同日に試験説明会を開催)

座学 (6月・10月、各2時間)	ヒグマ遭遇事例の共有・意見交換・対応検討 ルールや運用についての意見交換
---------------------	---

**研修F－インターン研修2（知床五湖フィールドハウス受付業務補助）**

扱い手：知床財団、知床五湖フィールドハウス

実地 (1日)	知床五湖フィールドハウスでの受付対応、ツアー管理、認定手続きを体験研修後にレポート作成・提出
------------	--

**研修G－自主引率の実施**

協力：既存登録引率者

実地 (計8回以上)	下記①及び②について、一般者2名以上※1を自主引率 自主引率実施毎にレポート作成・提出 ※①または②のうち必ず1回は8名以上を引率すること。  ①ヒグマ活動期における自主引率 ・知床五湖以外のフィールドでの引率を4回以上実施 ※知床半島内（フレペの滝・ポンホロ沼・羅臼湖・羅臼岳等）を想定。他の地域については、実施要綱に定める。  ②植生保護期における自主引率 ・知床五湖地上遊歩道（大ループ）において引率を4回以上実施 ・うち2回は既存登録引率者1名※2が同行し、引率技術を指導、評価
---------------	---

※1集客については新規養成者自ら行うこと。

ただし、集客が困難である場合は知床ガイド協議会、既存登録引率者等に相談し、協力を要請すること。

※2同行する既存登録引率者への依頼は基本的に研修生自ら行うが、困難である場合は知床ガイド協議会等に相談し、協力を要請する。

<b>スキルアップ研修（任意）</b> <b>担い手：知床財団、知床五湖フィールドハウス、知床ガイド協議会、ウトロ消防ほか</b>	
座学・実地 (1日)	コース外踏査、緊急対応訓練、ヒグマ対処訓練、知床五湖モニタリング調査・学術研究結果の共有、ガイド技術講座などから予定 ※シーズンのトピックや他研修結果を踏まえて決定する。 ※内容は事前にメール等で案内する。

**【研修D、G実施に際しての諸注意】**

- ・知床五湖地上遊歩道は、ヒグマの出没や暴風雨など様々な理由により緊急閉鎖される可能性があるため、事前に情報を得て実施すること。また実地研修等は、期間中に完了するよう計画的に実施すること。なお、地上遊歩道の閉鎖が長期間にわたるなど、研修の継続が難しい事態に際しては、別途協議会で検討する。
- ・事故発生時の対応のため、賠償責任保険への加入や、傷害事故に対する補償態勢を整えた上で自主引率を行うことが望ましい。
- ・研修D、Gのツアー中にヒグマ遭遇によりツアー中止となった場合、研修者のグループがヒグマに遭遇した際は、研修実施と認定される。他グループがヒグマと遭遇して中止となった際は、研修者のグループが第3湖（H地点）まで到達していれば、研修実施と認定される。
- ・同日の実施は2回までとする。

**【所定のインターナン、自主引率の回数を達成できなかった場合について】**

- ・研修D、Gについては各々実施回数の半分（小数繰り下げ）までを次年度に繰り越すことができる。その他の研修は繰り越せず、次年度再履修するものとする（研修費用を再納付の上、研修Aより再開となる。）。

## 【研修修了者登録について】

- ・研修修了者は有効期間3年間（研修修了当該年を含む受験資格3回）の研修修了者登録がされる。研修修了者登録がなされた者は、以下の要領で登録試験を受験することができる。

引率者登録試験1（筆記） 翌シーズン引率希望者全員が受験	
1次試験 (筆記)	<p><u>受験資格</u></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・当該年度の新規養成研修の修了登録をされた者</li><li>・当該年度の登録引率者のうち、当該年度のシーズン前・中・後の研修受講者（更新者）</li><li>・過年度の引率登録の未更新者のうち、当該年度のシーズン中・後研修の受講者</li><li>・過去3カ年の新規養成研修修了者のうち、引率登録されていない者であって、当該年度のシーズン中・後研修の受講者</li></ul> <p><u>試験内容</u></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・知床五湖利用調整地区利用適正化計画及びヒグマ活動期運用ハンドブックから、制度、ルール、ヒグマ生態、地理、用具等について択一形式及び記述式で30問を出題。27問以上の正答で合格。</li></ul> <p>試験料：3,000円</p>

引率者登録試験2（実地） 当該年度ヒグマ活動期の引率規定回数20回以上（うち大ループでの引率規定回数5回以上）の登録引率者は免除	
2次試験 (実地) *閉園後に実施	<p><u>受験資格</u></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・当該年度の引率者登録試験（筆記）合格者</li></ul> <p>※やむを得ない場合で筆記試験を欠席する場合は、試験1の受験資格と同様とする。</p> <p><u>試験内容</u></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ヒグマ遭遇回避術、避難時行動等について審査員3名がそれぞれ採点し、その合計を評価。</li><li>・審査は、予め設定された確認項目及び試験全般における姿勢や対応の総合評価項目について、減点方式で採点し、8割で合格。ただし、装備不足、不適切な中止/継続判断、試験態度不良と審査員に判断された場合は点数によらず不合格とする。</li></ul>